

11月19日(月)

神の家族における愛

聖書朗読 I ペテロ 2:1~10

神を愛する者は、兄弟をも愛すべきです。私たちはこの命令をキリストから受けています。

1ヨハネ 4:21

私は、教会に通う習慣の中で育ちました。子どもの頃は、テキサス州のハッピーにある教会で礼拝をし、大学生の頃にはアビリンのヒルクレスト教会で礼拝をしていました。夫のフランクが海軍にいた頃には、サンディエゴからバージニア州のフォールズ・チャーチの教会で礼拝をしていました。ロサンゼルスに居を構えてからは、私たち家族はバーモント通り教会とカルバーパルム教会にいます。

教会は、私たちの生活において、結婚・出産・葬儀・洗礼など大きな役割を担っています。毎週、兄弟姉妹とともに主の食卓を共にし、キリストの死と復活をおぼえることは、生活のリズムの一部となっています。

私たちには、教会で出会った世界中の友人と家族がいます。また、出会ったことのない世界中の人々とも特別な交流を持っています。

私は、主が恵み深い方であることに満足しています。そして主が闇から光の中に召し出された特別な人々が大好きです。

礼拝の中でも、とりわけ日曜朝の礼拝時に、私が礼拝の備えをしているように、将来目覚めて神様に礼拝を捧げるであろう方々を思うことが大好きです。私は、日々私の家族と教会の家族のために祈っています。

讃美歌 192

祈り 天の父よ。感謝いたします。あなたの民は私の人生の一部です。私たちが分かち合う交わりと愛に感謝します。共通の目的のために、共に教え、奉仕する努力に感謝いたします。私たちがよりよく愛しあうことができるように助けてください。

イエス様の御名によって。アーメン。

ビリー・シルヴェイ

カルフォルニア州 ロサンゼルス

今日の力

2012年11月19日～11月25日

翻訳 鈴木淳之介

編集 岩田欣三

この冊子の聖句は、新改訳聖書第三版を使用しています。

御茶の水キリストの教会

11月20日(火)

神の国の祭司

聖書朗読 I ペテロ 2:9~10

イエス・キリストは私たちを愛して、その血によって私たちを罪から解放し、
また、私たちを王国とし、ご自分の父である神のために祭司としてくださった方
である。
ヨハネの黙示録 1:5~6

「祭司」という言葉を聞いて、どういうイメージを思い浮かべるでしょうか。
多くの方々は、黒ずくめの聖職者らしい法服をまとい、首から十字架を下げている
ような人をイメージするでしょうか。私が思いますに、「祭司」という言葉を聞いて、
看護師、大工、航空管制官、学校教師、配達人、演奏家、設計者、画伯、秘書など
のイメージを浮かべる人はまたいないのではないのでしょうか。そして、「祭司」とい
う言葉を聞いて、「あなた自身」を思い浮かべる人もまたいないのではないでしょ
うか。そして、それは残念なことです。聖書をあなたがそういうふうと考えているな
んて。

聖書は、集団、教会、集会としての信仰者たちのイメージを押し並べて、神の
民の祭司団として描いています。神が選んだ、神に属する聖なる人々、神を証しす
る人々、神が聖であるように聖になるように励む人々。世界は、教会建物や病院、
学校、建築現場、司令室、コンサートホール、配達経路ではなく、この祭司の王国
に出会うことを望んでおります。祭司とは神の臨在の中に生き、それを背負う人々
です。彼らは日々、お互いのため、彼らの共同体のため、国のため、世界のために
とりなしの祈りをします。

讃美歌 221

祈り 主よ。あなたがごらんになるように、私たちも自分自身を見つめること
ができますように、選ばれた人々がキリストの犠牲によって聖とされ、
あなたの栄光のために、他の人々に奉仕することができますよう聖別し
てください。アーメン。

デイビット・ラングフォード
テキサス州 ラボック

11月21日(水)

主の足跡をたどる

聖書朗読 I ペテロ 2:11~25

キリストも、あなたがたのために苦しみを受け、その足跡に従うようにと、あな
たがたに模範を残されました。
I ペテロ 2:21

侮辱と冒涇の告発がイエス様のまわりに渦巻いていました。茨の冠はイエス様の
頭皮に食い込み、イエス様を責める人々は唾をはきかけ、拳でイエス様を散々に
打ちのめしました。鋭い金属の棘のついた鞭はイエス様の肉を引き裂きました。こ
のすべての出来事の中で、神の子は、彼らすべてを一掃する天使の軍団を降臨させ
る力を持ちながらも、静かに苦しんでおられました。防御も威嚇も報復もせずに。

なぜでしょうか。そうすることでイエス様は、ご自分が従うべき立場を踏み
越えることを理解していらっしゃったからです。従順な神の子が、神様の人類救済
の計画をぶち壊しにするはずはありません。どのようにして、でしょう? 『正し
くさばかれる方にお任せになった』(2:23) のです。イエス様は裁きの鍵を神様に渡
され、取り扱うその時と方法を委ねられたのでした。

ペテロはこの箇所において、イエス様のお話を分かち合っておりません。彼の心
には別な目的があったのでした。『キリストも、あなたがたのために苦しみを受け、
その足跡に従うようにと、あなたがたに模範を残されました。』(2:21)。私たちが不
当な告発、侮辱、愚弄や迫害を受ける時、主はイエス様がなされたように応じるこ
とを呼びかけておられます。威嚇や報復によらず、神様に立ち返ることを。あなた
はそれほどまでして、キリストに従うことができますか?

讃美歌 第二編 140

祈り 主よ。私たちはあなたの御子の偉大な犠牲に感謝しきれません。茨の
道であっても、あなたの足跡に従う呼びかけに応えることにより、私た
ちの感謝を表せるようにしてください。

主の御名によって祈ります。アーメン。

ジャン・ノックス
テキサス州 グランブリー

11月22日(木)

ピラミッドを組む

聖書朗読 II ペテロ 1:5~11

知識には自制を、自制には忍耐を、忍耐には敬虔を、敬虔には兄弟愛を、兄弟愛には愛を加えなさい。
II ペテロ 1:6~7

私が子どもの頃、近所の子ども達と遊んでいる中で「人間ピラミッド」を組んだものです。

大柄で、力のある子から次々と四つん這いになり、その上に少し小柄の子が乗り、最後に一番小柄な子がピラミッドの頂上に乗るのです。合図を聞くと、一番下の人が潰れて、ピラミッドも崩れます。子どもたちの歓声と笑い声が一塊になります。

本日の聖書箇所も人間ピラミッドのようなものです。私は「聖書ピラミッド」を思い浮かべます。それは堅く立ち、決して崩れるものではありません。何よりもまず、信仰の大きく強い基礎を据えます。私たちの信仰が強ければ、それに徳性を加えます。視界が変わって見えてきます。神様とその本質についての知識を加えます。神様の物語とその人々との関係について学びます。年長の人生に精通した神の民の方々が、私たちの生活における試練の価値を示し、忍耐について教えてくれます。私たちのピラミッドは、信仰に重きを置くことで強くなり、他の人々は私たちの中に神様を見ます。隣人愛に重きを置くことで、他者に対して柔和となります。なぜなら、愛なる神を知った私たちは真の愛を知るからです。神は聖書ピラミッドの頂上におられます。

しかし、子どもの遊びのように、もし(信仰の)基礎が潰れてしまったら、注意あれ! あなたは負けてしまいますよ(1:9)。

讃美歌 267

祈り 父よ。あなたの愛を誰かにはっきり示す機会をお与えください。あなたにある私たちの繋がりを強めてください。

イエス様の御名によって。アーメン。

ラベルネ・ジョーンズ
ニューメキシコ州 グランツ

11月23日(金)

神の子羊

聖書朗読 I ヨハネ 2:15~17, 28~29

だれも、ふたりの主人に仕えることはできません。一方を憎んで他方を愛したり、一方を重んじて他方を軽んじたりするからです。あなたがたは、神にも仕え、また富にも仕えるということはできません。
マタイ 6:24

私が取り上げる雑誌のほとんどに、ストレス緩和についての記事があります。現代の家庭はストレスに晒されています。彼らは、大きな家に住み、車を3、4台所有し、携帯電話を持ち、スポーツの素養を持ち、様々な物を持っています。これらを得るためには、長い時間仕事をしなければなりません。彼らは、「すべてを持とう」として消耗しているのです。

ヨシュアは神の民を集め、彼らに問いいただきました。あなた方は、地上の偶像に仕えるのか、それとも主に仕えるのかと。彼らは選択を迫られました。そして、ヨシュアは言いました。『私と私の家とは、主に仕える。』(ヨシュア 24:15)。イエス様は、山上の説教の中で(マタイ 5~7章)、誰も二人の主人に仕えることはできないと仰いました。事実、新約聖書の全体は、キリストが私たちの生活すべてを求めておられることを示唆しているのです。

私たちのすべての力と財産は、主の愛と奉仕に焦点を当てることができます。私たち自身のすべてと持てるものすべてを主のものとする時に、私たちは主の平安と喜びをいただくことが出来るのです。これが最高のストレス解消ではありませんか。

讃美歌 334

祈り 主よ。あなたの大きい愛ゆえに、私たちはあなたの愛する僕となりたく思います。日々、心を一つにしてあなたを礼拝できるよう助けてください。

イエス様の御名によって。アーメン。

コーデリア・ルッカー
オクラホマ州 ウッドワード

11月24日（土）

視 界 を 変 え て

聖書朗読 Iヨハネ 3:11～24

そして、これらすべての上に、愛を着けなさい。愛は結びの帯として完全なものです。
コロサイ 3:14

数年前、夫のマックスはパイロット付きの小型飛行機に乗って、教会の友人と日帰りの湖での釣りに出かけて、小さな事故に遭いました。幸い、誰も重症を負うことなく、他の二人は早々に救助されました。マックスは歩くことができなかったので、飛行機の残骸の中で、救助ヘリが担架を手配してくるまで待っていました。

病院で会った時、私は夫の変わり様に驚きました。彼は物静かに語るようになっていました。その日の影響で、生きていることに感謝するようになりました。実際、私には身内間の意見の相違程度にしか思えない息子との対立も、彼には耐え得ないようでした。その新たな柔和な声で、僅かな不和や軋轢も取り除こうとしていました。いつでも意気消沈した状態を望まず、すべての家族の会話は明るく、とりわけ思いやりのあるものであるべきだと言いました。

その時のことを振り返ると、私も彼がその時持っていたような、生まれ変わったような気持ちと親愛という唯一の目標に囚われてみたいと思うのです。願わくば、飛行機事故抜きで。

夜明けより一日の終りに至るまで、行動と言動の模範となり
神の前にあなたの賜物を差し出し、素晴らしいものとするべく励め、
キリストの麗しさがあなたの中に見いだせるように。

ジョージ・L・ジョンソン

讃美歌 461

祈 り 父よ。私たちがあなたの御名の愛を周囲に示すためにここにあることを思い出させてください。

イエス様の御名によって。アーメン。

キャシー・ドーキンス
アラスカ州 ケチカン

11月25日（日）

そ の 時 ， 私 は 見 た

聖書朗読 黙示録 4～5

御座にすわる方と、小羊とに、賛美と誉れと栄光と力が永遠にあるように。
黙 5:13

一年に一度、私は大学生の大きなグループで黙示録の4章から5章を読みます。私は、いつもこの聖書箇所への反応に驚きます。聖書に描かれている神の栄光の記述の中で最も美しい箇所です。読み進めていくうちに、そのイメージとエネルギーに圧倒されるので、読者は謹聴し、水を打ったように静まり返ります。

このテキストは、目をそらすことのできないものですが、「見る」ということが重要なポイントです。この二つの章において、何度もヨハネの文章はこの恐るべき霊的な場面を「そして私は見た」という記述で始めています。彼が見たものは、その場にいたものすべてに臨んだ素晴らしい神様の輝きであり、すべてのものが賛美の声をあげている姿が見られました。

私たちにとっては、これらのイメージをしばしば「見る」ことが大切です。他のことについては、私たちの日々の生活の細々としたことによって、簡単に消化することができないのです。やるべきこと、締め切り、不一致などは簡単に消化できるものではありません。私たちが、神様の素晴らしい輝きをこのような文章を通して「見る」時、私たちの視界はクリアーになり、日常の細々としたことを新たな視点から見ることが出来るのです。私たちが注意深く「見る」ことによって、私たちは再び学ぶでしょう。「そうです！彼こそが神であり、私ではない。聖なる聖なる聖なるかな、主よ。全能の神！」

讃美歌 66

祈 り 聖なる神よ。あなたの大きい恵みにあつて、真に見るために、あなたの栄光の光で私たちを盲目にしてください。

主なるイエス様の御名によって。アーメン。

ジェフ・カーリー
テキサス州 ラボック